

松江市内の宍道湖に設置された水質観測用のブイ

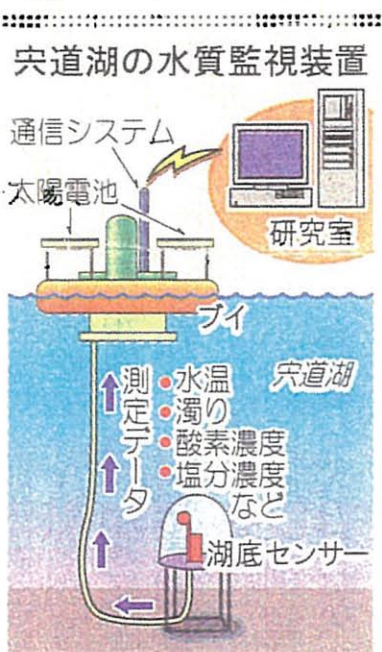
守れ！宍道湖のシジミ

新型監視装置を設置

島根県

「宍道湖七珍」の一つ「江工業高専、小松電機産業(いずれも松江市)とシジミの大量死問題で悩む島根県は、原因とされる貧酸素水塊の発生パターンを突き止めようと、松

夏場のシジミ大量死を



招く貧酸素水塊の詳しい発生メカニズムは分かっておらず、季節や天候による水質変化を今後三年間継続的に調べ、被害防止に役立てる考えだ。

高さ約一メートルのドーム状の湖底センサーには、水温や濁り、酸素や塩分の濃度、流れの速さ・向き

などの計測装置が収められ、ケーブルで湖面の直径二・二メートルのブイにつながっている。

湖底のデータを一時間に数回ブイに送り、太陽電池の電力を使って研究

室に無線で転送する仕組みだ。

湖底を掘削して塔を立てて調べていた従来の方式に比べ、湖を汚さない利点があり、費用も三年間で約六千万円と安く済むという。